

科目名	生物学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
<p>生物の基本単位である細胞の構造とはたらきを理解させるとともに。細胞（生物）が生き続けるために必要な恒常性の仕組みを理解させる。また、数多くの偶然（突然異変）から生まれた生物の貴重さと命の尊さを考えさせる。</p>	
授業計画	
<p>①細胞の構造とはたらき 細胞の構成成分・酵素のはたらき</p> <p>②物質交代とエネルギー交代を営む細胞 酸素呼吸・タンパク質合成・光合成</p> <p>③はたらきの調節と統一ある活動 内部環境の維持 恒常性（ホメオスタシス） 体液：血液（成分・免疫・血縁凝固）組織液，リンパ液 ホルモンによる調節と神経による調節（神経系・自律神経） 内分泌腺のはたらきと調節 血糖値の調節，体温調節</p> <p>④生命の連続性と種の存続 遺伝子の本体であるDNAについて 生命の尊さについて</p>	
授業形式	
<p>講義を中心に行う。 問題演習 2 時間・ビデオ鑑賞 2 時間程度行う。</p>	
教科書・参考書	
<p>イラストでわかる歯科医学の基礎 永末書店出版 必要に応じてプリントを使用する。</p>	
評価の方法	
筆記試験	
備考	
特になし	

科目名	化学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
<p>医療の現場で種々雑多な歯科材料などの物質を扱う立場として、化学の基礎知識は必要不可欠である。中高レベルの化学を振り返り、基本的な物質の本性を学ぶ。</p> <p>その中で「歯科医学」と化学の関連を認識し、さらに深く掘り下げ知識の習得を目指す。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質とは 2. 気体とは 3. 物質が水に溶けるとは 4. 酸化還元 5. 化学反応 6. 有機化合物 7. 生活の中の化学 (環境教育) 	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
全国歯科衛生士教育協議会 編集「化学」医歯薬出版	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	基礎数学
学 年	1年次
単 位	1単位
時間数	16時間(8回)
学習目標	基本的な計算を通して、国家試験に対応できるような力を養い、歯科衛生士業務を行う上で必要な力を身につける。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分数の四則演算 2. 小数の四則演算 3. 割合 4. 割合の文章題 5. 統計① 6. 統計② 7. まとめ 8. 国家試験対策
授業形式	講義、グループワーク
教科書・参考書	
評価の方法	筆記試験(70%) 課題等(30%)
備考	

科目名	心理学
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間 (6 回)
学習目標	
<p>心理学は、人間理解のための基礎的な知識を提供する学問である。他者を理解するには、まず自己理解が十分にできていることが大切である。この授業では、人間理解のための5つのテーマについての基礎的な知識を学ぶこと、身につけることが目標である。それをベースにして「人間関係論」の授業に結びつけるような展開にしている。</p>	
授業計画	
<p>1. 心理学で学ぶこと (15 章 : P.200-208) 心理学 (心と行動の科学)、心理学の歴史と研究法 歯科衛生士の仕事と心理学</p> <p>2. 性格を知る (その人らしさの心理-パーソナリティー-) (5 章 : P.54-65) 性格とは、性格の理論、性格診断 (性格検査の種類)、性格の形成</p> <p>3. 知覚とこころ (情報の処理) (1 章 : P.2-14) 知覚と情報処理、知覚の成立 (ものの見え方)、知覚の歪み (錯覚・錯視) 欲求と知覚</p> <p>4. 発達の心理学 (発達するこころ (1) (2)) (8 章 : P.94-110 ; 9 章 : P.112-124) 発達の法則性、発達課題、発達段階、発達の理論 (エリクソン、ピアジェ) 胎児期から老年期までの発達段階の特徴</p> <p>5. 高齢者の発達特徴と心理 (9 章 : P.120-124) (6 章 : P.77-79) 高齢者の認知・性格など、高齢者の関わり方・支援のあり方、認知症</p> <p>6. 発達の障害 (6 章 : P.75-76 知的能力障害) (8 章 : P.109-110 神経発達障害) 知的障害、軽度発達障害</p>	
授業形式	
<p>基本は講義形式であるが、内容の理解を促すために映像教材を活用したり、性格検査の実習、知覚や記憶に関する実験の体験などを取り入れることで、興味をもって積極的に授業に取り組めるように工夫している。</p>	
教科書・参考書	
教科書 : 最新歯科衛生士教本『心理学』 医歯薬出版株式会社	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	人間関係論
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間 (6 回)
学習目標	
「心理学」で学んだ基礎的な知識を活用しながら、円滑な社会生活を過ごすために人間関係に関わる主な理論や知識・スキルを学び、習得することを目標にして授業を行う。将来的には、その知識を実生活の中で活用することを意識して受講していただきたい。	
授業計画	
<p>1. 人と関わる心理－対人関係の心理学－ (10 章 : P.125－134)</p> <p>(1) 対人認知、対人魅力 (人の好き・嫌い) (2) パーソナルスペース、対人距離 (3) 向社会的行動 : 愛他的行動、おもいやり、援助行動 (実習) ①EQ (情動知能) を調べる。</p> <p>2. 人と集うところ－集団の心理学－ (11 章 : P.135－148)</p> <p>(1) 集団の心理 (2) リーダーシップ (PM 理論) (3) 社会的影響 (社会的促進・抑制、同調行動、説得のテクニック、流行とうわさ)</p> <p>3. 健康なところ (メンタル・ヘルス)－適応の心理学－ (12 章 : P.149－163)</p> <p>(1) 欲求と社会生活への適応 (2) メンタル・ヘルス (3) ストレスを知る (ストレスのメカニズム【ラザラスの「認知評価モデル」】、ストレスを軽減する方法) (実習) ①「エゴ・グラム」で性格面のストレスへの強さについて調べる。 ②「ストレス・コーピング」のタイプを調べる。 ③「ブリーフ・リラクセーション」の実習。</p> <p>4. カウンセリングのころ (1)－ヘルスカウンセリング (1)－ (13 章 : P.165－182) (14 章 : P.183－198)</p> <p>(1) カウンセリング・マインド (2) カウンセリングの理論 (ロジャーズの理論) (3) カウンセリングの基礎技法 (言語的かかわり技法、非言語的かかわり技法) (実習) ①質問技法 (開いた質問と閉じた質問) の実習 ②非言語的関わりの技法 (姿勢、視線、相づちなど) の実習</p> <p>5. カウンセリングのころ (2)－ヘルスカウンセリング (2)－ (13、14 章)</p> <p>(1) カウンセリングの基礎技法の実習 (実習) グループに分かれて実習します (聞き手と話し手の経験、言語的関わり技法と非言語的関わり技法の使用) (2) 歯科衛生士における事例</p>	
授業形式	
基本は講義形式であるが、内容の理解を促すために映像教材を活用したり、EQ (情動知能) やストレスへの耐性などを調べるテストを行い、対人関係の基礎についての自己理解を行ったり、カウンセリングの基礎技法である「質問技法」についてグループワークを行うなどの実習を取り入れることで、興味をもって積極的に授業に取り組めるように工夫しています。	
教科書・参考書	
教科書 : 最新歯科衛生士教本『心理学』 医歯薬出版株式会社	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	社会学
学 年	1 年
单 位	1 単位
時間数	2 4 時間 (6 回)
学習目標	
<p>家族研究の事例や最新のトピックスをあげ、特に現代家族について、考察する。同時に、社会学的なものを見方を学ぶことで、歯科衛生士としての役割を考える。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (授業の概要の説明)、社会学とは何か 2. 家族とは何か (1) あなたにとって家族とは? (2) サザエさんの家族 3. 配偶者選択 結婚とは何か 4. 家庭内の地位と役割 5. 子どもにとって家族とは 6. まとめ (総括) 	
授業形式	
講義形式 (適宜、ビデオ教材を使用する)	
教科書・参考書	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	英語 I
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	40 時間 (10 回)
学習目標	
<p>① 日常的に使う語らいや表現、また専門用語をテキストを通して学習する。</p> <p>② 歯科衛生士として、現場で外国人患者と簡単なコミュニケーションがとれる。</p> <p>③ 私たちの日常生活にとけこんでいる英語やその文化を意識する。</p>	
授業計画	
<p>1. オリエンテーション、自己紹介（簡単に英語で）、授業進行等の説明 Be と一般動詞の現在形、過去形、人称・数の確認（テキスト Unit1～3）</p> <p>2. 医院での、簡単な受付や症状の確認（have の様々な用法）（テキスト Unit4～5）</p> <p>3. 予約の取り方（海外旅行にも役立つ表現 I'd like～）（テキスト Unit6）</p> <p>4. 歯の呼称、身体の呼称を学び表現の幅を広げる（テキスト Unit7～8）</p> <p>5. 患者さんの症状を詳しく尋ねる（現在完了）（テキスト Unit9～10）</p> <p>6. 患者さんに案内や説明をする（命令文・未来形）（テキスト Unit11～12）</p> <p>7. 患者さんに薬の説明をする等、役立つ表現の学習（テキスト Unit13）</p> <p>8. 歯の健康を指導する（should、助動詞）（テキスト Unit14～15）</p>	
授業形式	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 ・ ロールプレイによる会話練習 ・ チェックテスト（5 回程度実施予定 5～10 分） 	
教科書・参考書	
歯科用英語ハンドブック 即戦力のトレーニング・適宜プリント類	
評価の方法	
① 単位試験（60%） ② 提出物（20%） ③ 授業中の取り組み（20%）	
備考	

科目名	英語Ⅱ（歯科用語）
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	16時間（6回）
学習目標	歯科臨床で頻りに用いられる歯科用語は英語であることがほとんどである。 その歯科用語の意味を理解し、英語の歯科用語を日本語で説明できるようにしたうえで、臨床の場で使いこなせるようにする。
授業計画	教科書に従って、歯科用語の意味、使われ方を説明する。 簡単な歯科現場を説明した英語の文章を、学生にそれぞれの単語の意味を問いながら、英訳していく。 歯科用語（英単語）の意味を学生に問いながら、可能なかぎり授業時間内で、歯科用語を理解し使えるように習得してもらう。
授業形式	講義形式
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本 「歯科英語」
評価の方法	筆記試験
備考	

科目名	国語表現
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (8 回)
学習目標	
文章を表現に即して的確に理解できる力を身につけ、適切な表現力を身につける。	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 悪文を書かないために (1) 2. 悪文を書かないために (2) 3. 自己PR文 4. 文章の書き方の基本 文章を書く手順 5. 表現の演習 6. 報告・紹介の文章 7. 構想ノートの作り方 意見文を書く (1) 8. 意見文を書く (2) 	
授業形式	
教科書・プリントなどを用いながらの文章表現・意見発表 講義	
教科書・参考書	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	解剖学（組織・発生学含む）
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	6 0 時間（15 回）
学習目標	
<p>人体解剖学は医学の全ての学問の最も基礎となる学問で、身体の構造を学ぶ学問である。その対象はヒトである。解剖学には臨床の場と同じように生身の身体を対象とする「肉眼解剖学」と、より細かなところの構造を顕微鏡を用いて観察する「顕微解剖学＝組織学」とがある。口腔を含む顎顔面部は独立して存在するのではなく、全身の一部であり、全身と深く関わりをもっている。歯科領域に現れる疾患の多くも同様に全身状態と関わっている。解剖・組織学においては、歯を除く顎顔面部を主体にヒトの「からだ」の構造について学ぶ。また、ヒトが成長・発育する過程である発生学も合わせて学修する。</p>	
授業計画	
1	解剖 総論 骨系（総論）
2	骨系（各論）
3	内・外頭蓋底 筋系
4	筋系
5	中間試験 骨学実習
6	組織（総論）
7	組織（各論）
8	内臓系（総論） 消化器系（総論・各論 1）
9	消化器系（各論 2） 呼吸器系
10	泌尿器系 生殖器系 発生
11	発生学
12	内分泌系 脈管系（総論）
13	脈管系（動脈系） 脈管系（静脈・リンパ系）
14	神経系（総論） 神経系（中枢神経）
15	神経系（末梢神経） 感覚器系
授業形式	
1～15	板書およびパソコンによる映写による授業（講義）
5	骨模型を用いた実習
教科書・参考書	
「学生のための 解剖・組織・発生学」医歯薬出版	
評価の方法	
中間試験（30%）、本試験（60%）、レポート点（10%）による評価	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	口腔解剖・組織学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	60 時間 (15 回)
学習目標	
口腔解剖学は歯科医学の基礎をなす学問分野である。歯の形態（永久歯、乳歯）と機能、歯列と咬合および歯の異常を肉眼レベルで理解する。また、光学顕微鏡レベルでの歯系組織の構造と機能、発生過程および加齢変化を理解する。	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論（方向用語、歯の記号、歯式、歯と歯周組織の概略） 2. 総論（解剖学的名称、歯に共通する形態的特徴、比較解剖学） 3. 永久歯（切歯） 歯の発生 4. 永久歯（犬歯） エナメル質 5. 永久歯（上顎小臼歯） 象牙質・歯髄 6. 永久歯（下顎小臼歯） 象牙質・歯髄 7. 永久歯（上顎大臼歯） セメント質 8. 永久歯（下顎大臼歯） 歯槽骨 9. 歯の異常 歯根膜 10. 歯列・咬合 口腔粘膜 11. 歯の鑑別 歯肉 12. 乳歯 13. 顕微鏡実習（エナメル質、象牙質、歯髄） 14. 顕微鏡実習（歯周組織、歯の発生） 15. 総まとめ 	
授業形式	
講義と実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 全国歯科衛生士教育協議会 編集 医歯薬出版株式会社	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	生理学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	60 時間 (15 回)
学習目標	
<p>生体を構成している諸器官とそれら諸器官同士との関連について理解する。</p>	
授業計画	
<p>生理学は一般生理学と口腔生理学とに分けられる。 一般生理学としては細胞、体液、循環、呼吸、消化、排泄、体温、内分泌、筋、神経および感覚について。 口腔生理学としては歯周組織、顎運動、咀嚼および吸啜、嚥下および嘔吐、唾液、口腔の感覚および発音について講義する。 項目に分けると多くの分野になるが、すべての分野は大なり小なりの共同作業を行っている。 したがって、これらの関連性について幅広く理解できるように講義する。</p>	
授業形式	
<p>板書およびスライドで、講義を行う。</p>	
教科書・参考書	
<p>歯科衛生士テキスト生理学 (覚道幸男他・学建書院)</p>	
評価の方法	
<p>筆記試験</p>	
備考	
<p>サブノートを必ず作成し、徹底した復習を行うこと。</p>	

科目名	生化学（栄養学含む）
学 年	1 学年
単 位	2 単位
時間数	60 時間（15 回）
学習目標	健康維持には栄養、運動および休養が重要であることを踏まえ、具体的な栄養のあり方を理解するために、生命の営みに必要な栄養素の代謝過程や生体内機能、さらに口腔領域との関わりを学ぶとともに、基礎となる生化学的思考法（分子レベルでの生命現象の捉え方）を身につける。
授業計画	<p>I. 生命活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 生体構成成分と栄養素 酵素の種類と役割 ビタミン・ミネラルの種類と役割 糖質の生体内機能 脂質の生体内機能 アミノ酸・タンパク質の生体内機能 代謝調節と恒常性維持 <p>II. 歯と口腔の生化学</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯・歯周組織の構造と機能 唾液の役割 う蝕の発症と代用甘味料 <p>III. 栄養の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人の食事摂取基準（2010） 食生活と食品 ライフステージと栄養
授業形式	講義（15 回）
教科書・参考書	最新 歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝（医歯薬出版）
評価の方法	筆記試験
備考	将来受験する歯科衛生士国家試験のために有用なノートを丁寧に作成すること。

実務経験のある教員による授業科目

科目名	医学概論（内科学含む）
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	20 時間（5 回）
学習目標	歯・口腔領域は全身の一部であり、全身疾患の部分症状が口腔に現れたり、全身疾患が歯・口腔疾患に影響を及ぼすことがある。逆に歯周病のように口腔疾患が全身疾患に影響を及ぼすこともある。また高齢化社会を迎え、全身疾患を有する患者の歯科診療の機会が増大している。そこで、歯科医療、口腔ケアに関わる歯科衛生士も全身疾患の基礎知識を理解することは重要であり、特に歯科医療に関連の深い全身疾患を主体に学ぶ。
授業計画	1. 肝疾患、甲状腺疾患、心身症 2. 糖尿病、脳血管障害、神経疾患、リウマチ・アレルギー性疾患 3. 高血圧・心疾患、呼吸器疾患、消化管疾患 4. 感染症、血液疾患、腎疾患 5. 口腔内科学
授業形式	講義：プリント、パワーポイント使用
教科書・参考書	歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（医師薬出版）
評価の方法	筆記試験
備考	

科目名	病理学																		
学 年	1 年次																		
単 位	2 単位																		
時間数	6 0 時間 (15 回)																		
学習目標	病理学では病気とは何かを学びます。すなわち、病気とは正常な形態や機能を逸脱した状態で、病気の原因（病因）、どのようにして発生するのか（発生機序）、どの部位に発生しやすいのか（好発）、どのような特徴があるのか（所見）、病気の結果どうなるのか（予後）について学びます。病気概念を学んだのち、歯・顎・顔面・口腔領域に発生する病気（疾患）について理解することで、臨床上での予防と治療へとつなげることを目標とします。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 病理学概論・病因論 先天異常</td> <td>8. 歯の沈着物と着色 う蝕</td> </tr> <tr> <td>2. 循環障害</td> <td>9. 歯髄の病変</td> </tr> <tr> <td>3. 代謝障害 増殖と修復</td> <td>根尖部歯周組織の病変 顎骨の病変</td> </tr> <tr> <td>4. 免疫と免疫異常</td> <td>10. 歯周組織の病変</td> </tr> <tr> <td>5. 炎症</td> <td>11. 歯の異常</td> </tr> <tr> <td>6. 腫瘍 病理学の総復習</td> <td>12. 歯の機械的損傷・化学的損傷 象牙質・セメント質の増生</td> </tr> <tr> <td>7. 中間試験 口腔病理学概論</td> <td>口腔の創傷治癒 13. 口腔粘膜の病変 エプーリス 口腔領域の奇形</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 口腔領域の嚢胞 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 唾液腺の疾患 口腔病理学の総復習</td> </tr> </table>	1. 病理学概論・病因論 先天異常	8. 歯の沈着物と着色 う蝕	2. 循環障害	9. 歯髄の病変	3. 代謝障害 増殖と修復	根尖部歯周組織の病変 顎骨の病変	4. 免疫と免疫異常	10. 歯周組織の病変	5. 炎症	11. 歯の異常	6. 腫瘍 病理学の総復習	12. 歯の機械的損傷・化学的損傷 象牙質・セメント質の増生	7. 中間試験 口腔病理学概論	口腔の創傷治癒 13. 口腔粘膜の病変 エプーリス 口腔領域の奇形		14. 口腔領域の嚢胞 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍		15. 唾液腺の疾患 口腔病理学の総復習
1. 病理学概論・病因論 先天異常	8. 歯の沈着物と着色 う蝕																		
2. 循環障害	9. 歯髄の病変																		
3. 代謝障害 増殖と修復	根尖部歯周組織の病変 顎骨の病変																		
4. 免疫と免疫異常	10. 歯周組織の病変																		
5. 炎症	11. 歯の異常																		
6. 腫瘍 病理学の総復習	12. 歯の機械的損傷・化学的損傷 象牙質・セメント質の増生																		
7. 中間試験 口腔病理学概論	口腔の創傷治癒 13. 口腔粘膜の病変 エプーリス 口腔領域の奇形																		
	14. 口腔領域の嚢胞 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍																		
	15. 唾液腺の疾患 口腔病理学の総復習																		
授業形式																			
講義																			
教科書・参考書	新・歯科衛生士教育マニュアル Pathology 病理学：クインテッセンス出版 イラストでわかる歯科医学の基礎：永末書店																		
評価の方法																			
授業への参加度、試験にて評価する																			
備考	人体の正常な構造と機能についても、講義の中で補足的に説明します。 解剖学や生理学など、他科目の復習も大切にして下さい。																		

実務経験のある教員による授業科目

科目名	微生物学
学 年	1年次
単 位	2単位
時間数	60時間（15回）
学習目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の種類や発病について、概要を説明できる。 2. 微生物の分類、形態、機能、増殖、遺伝、病原性について理解し、感染予防や治療法について説明できる。 3. 微生物に対する免疫担当細胞の役割、免疫の一連の流れを理解し、生体に備わる防御機構を説明できる。 4. 口腔微生物の種類と発病について説明できる。 5. 細菌を実際にハンドリングすることにより、無菌操作の概念と技能を習得する。 	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学総論 2～3. 細菌学 4～5. ウイルス 6. 真菌, 原虫 7. 滅菌と消毒 8～9. 口腔細菌学 10～11. 免疫学 12～15. 微生物学実習 	
授業形式	
講義, 実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 (医歯薬出版)	
評価の方法	
科目試験 (70%), 小テスト (20%), 実習レポート (10%) を総合して評価する	
備考	

科目名	薬理学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	40 時間 (10 回)
学習目標	薬理学とは薬物と生体との特異的な相互作用を研究する学問である。疾病の治療や予防、診断における薬物の知識を与える。そして、全身的、局所的に適用される薬物に対する理解を深める事により、高齢者や有病者の患者にも対応できる衛生士を養成する。
授業計画	<p>1 薬理学概論</p> <p>2 総論 薬理学の意義 作用機序</p> <p>3 薬理作用に影響を与える因子 薬物投与と生体内運命</p> <p>4 薬物の連用 併用 有害作用</p> <p>5 医薬品 医薬品の定義 薬物の剤形 処方箋、調剤と製剤 薬物の保管</p> <p>6 中枢神経系に作用する薬物 全身麻酔薬、催眠薬 抗不安薬 精神賦活薬、鎮痛薬</p> <p>7 末梢神経系に作用する薬物 局所麻酔薬の作用機序 適用方法 副作用 種類</p> <p>8 自律神経に作用する薬物 交感神経の薬物、副交感神経の薬物</p> <p>9 呼吸循環系に作用する薬物</p> <p>10 止血薬</p> <p>11 抗炎症薬</p> <p>12 ビタミン・ホルモン</p> <p>13 病原微生物に作用する薬物 消毒薬の作用機序 消毒薬の種類 化学療法薬の作用機序 化学療法薬の種類</p> <p>14 悪性腫瘍治療薬</p> <p>15 腐食・収斂薬 歯内療法に使用する薬物 歯周疾患に使用する薬物 う蝕予防に使用する薬物</p>
授業形式	国家試験に向けた内容、薬物を中心に、プリントやパワーポイントで講義内容を補足し、(図説、動画、写真等)他の教科との関連も説明しながら、より深い理解、知識の獲得を目指す。
教科書・参考書	教科書 最新歯科衛生士教本 薬理学 (医歯薬出版) 参考書 イラストでわかる歯科医学の基礎 (永末書店出版)
評価の方法	中間試験 (50%)・単位試験 (50%)
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	衛生学・公衆衛生学
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	40 時間 (10 回)
学習目標	
<p>本講義の学習目標は次の 3 点である.</p> <p>① 自己の健康観の構築</p> <p>② 健康増進および疾病予防を達成するための方法論</p> <p>③ わが国の保健水準および公衆衛生活動の現状の把握</p>	
授業計画	
<p>①健康の概念, 予防の考え方</p> <p>②人口問題</p> <p>③環境衛生</p> <p>④感染症予防および食品衛生</p> <p>⑤疫学</p> <p>⑥母子保健および学校保健</p> <p>⑦産業保健, 地域保健および成人保健</p>	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 (医歯薬出版)	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	口腔衛生学 I
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	40 時間 (10 回)
学習目標	個人および集団を対象とした口腔の健康の保持増進と歯科疾患の予防について、問題発見解決型志向を目指した口腔衛生的思考能力および実践能力の習得。
授業計画	<ol style="list-style-type: none">① 口腔衛生学概論② 歯と口腔環境③ 歯口清掃④ う蝕の予防 (う蝕発生要因・う蝕発生メカニズム)⑤ う蝕の予防 (う蝕活動性とう蝕リスク・発生要因別う蝕予防法)⑥ う蝕の予防 (フッ化物によるう蝕予防)⑦ 歯周疾患の予防⑧ 歯周疾患のリスクファクター⑨ 不正咬合の予防・口臭の予防⑩ 口腔疾患の疫学
授業形式	
講義	
教科書・参考書	新歯科衛生士テキスト 口腔衛生学ー口腔保健統計を含むー (学建書院)
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	口腔衛生学Ⅱ
学 年	1年次
単 位	2単位
時間数	32時間（8回）
学習目標	
個人および集団を対象とした口腔の健康の保持増進と歯科疾患の予防について、問題発見解決型志向を目指した口腔衛生学的思考能力および実践能力の習得。	
授業計画	
① } 口腔保健の現状（村田先生） ② } 母子歯科保健・学校歯科保健（村田先生） ③ } ④ } 産業歯科保健・成人歯科保健・老人歯科保健（村田先生） ⑤ 実習説明（日吉先生） ⑥ 実習1：口腔内診査（村田先生・日吉先生） ⑦ 実習2：う蝕活動性試験・歯口清掃（村田先生・日吉先生） ⑧ まとめ（日吉先生）	
授業形式	
実習および講義	
教科書・参考書	
新歯科衛生士テキスト 口腔衛生学－口腔保健統計を含む－（学建書院）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	衛生行政
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	16時間（4回）
学習目標	
<p>将来保健医療福祉の担い手として、住民・患者に質の高い生活を送るうえで必要なサービスが提供できるよう、歯科領域に関する社会制度および社会状況について学習し、理解することを目標とする。</p>	
授業計画	
<p>3時間の講義を4回実施する。概ね下記の予定で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回 歯科衛生士と法律（1／2） はじめに、歯科衛生士法 ○ 第2回 歯科衛生士と法律（2／2） 歯科医師法、歯科技工士法、歯科口腔保健の推進に関する法律、医療法 ○ 第3回 医療関係職種 歯科医療と関わる医療関係者、保健師助産師看護師法、診療放射線技師法、言語聴覚士法、医師法、薬剤師法、その他の医療関係職種に係る法律 ○ 第4回 その他の関係法規 薬事衛生法貴法規、保健衛生法規、予防衛生法規 	
授業形式	
講義形式	
教科書・参考書	
「歯科衛生士と法律・制度」医歯薬出版	
評価の方法	
筆記試験	
備考	
<p>インターネットを用いて必要な情報を自分自身で入手できる能力や環境があると、さらに理解を深めることができるので、その点準備をお願いします。</p>	

科目名	社会福祉
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (4 回)
学習目標	
社会福祉にまつわる動向 (制度やサービス) を学ぶことによって、より歯科衛生士としてのあり方について学ぶ。	
授業計画	
社会学的な視角をより現場で組み立てるために、社会福祉の動向 (制度やサービス) についてわかりやすく解説を行いたい。	
授業形式	
講義形式 (場合によっては視聴覚教材を使用する場合もある)	
教科書・参考書	
「歯科衛生士と法律と制度」(医歯薬出版)	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科衛生士概論 I
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (4 回)
学習目標	
<p>高齢化に伴い疾病構造が変化してきています。国民の衛生知識の向上にともない歯と全身との関係等歯の健康に対する国民の関心が高まるにつれ、保健指導や予防処置等の業務を通じて、国民の健康づくりに従事する歯科衛生士の役割が重要になってきています。歯科衛生士としての知識、技術、倫理等の概要について説明する。</p>	
授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> ① 歯科医療（臨床）とは ② 医の倫理とインフォームドコンセント ③ 歯科医療の特異性 ④ 歯科患者の特徴 ⑤ 歯科疾患の概要 ⑥ 歯科診療の流れの概要 ⑦ 滅菌と消毒 ⑧ 歯科材料 ⑨ 歯科臨床とエックス線 	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
歯科臨床概論	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科衛生士概論Ⅱ
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (4 回)
学習目標	
<p>歯科衛生士の業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および倫理的思考法の基礎を習得する。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1 歯科衛生学とは 2 歯科衛生士法と歯科衛生業務 3 歯科衛生士と医療倫理 4 歯科衛生活動のための理論 5 歯科衛生士の活動と組織 	
授業形式	
講義 演習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」(医歯薬出版)	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	保存修復学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	28時間（7回）
学習目標	
<p>う蝕に代表される歯の硬組織疾患や形態異常の発生から病変の移行、そして損なわれた形態や機能、審美性を改善、再発を予防する歯科治療の内容を理解することで歯科衛生士として必要な知識を習得する。</p> <p>また実際の診断法、治療方法を理解することで歯科衛生士として意図を持ち、診療補助業務に役立つ知識、技術を習得する事を目標とする。</p> <p>保存修復学を臨床科目の基礎として位置付け、広く臨床応用できるよう理解を深める。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保存修復学総論 2. う蝕の分類・発生・診査・診断 3. 歯髄保存療法 4. 直接修復法 5. 間接修復法 6. ホワイトニング、審美修復 7. 実習 	
授業形式	
教科書とプリントを教材として、PCによるスライドプレゼンテーションを利用して行う。 (講義)	
教科書・参考書	
最新 保存修復学・歯内療法学, 全国歯科衛生士教育協議会 編集, 医歯薬出版	
評価の方法	
筆記試験（多肢選択式、国家試験出題形式に準じる）	
備考	

科目名	歯内治療学
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	28時間（7回）
学習目標	歯髄疾患および根尖性歯周疾患の正しい診断と適切な治療方針を理解し、診療補助者としての的確な行動および患者への説明が出来るように知識および技能を習得する。
授業計画	<p style="text-align: center;">学生の行動目標（SBOs）</p> <p>1回．歯内治療学の概念，歯の解剖，歯周組織の特徴および硬組織疾患の診断法と疾患を説明できる。 歯髄疾患の概念とその進行を説明できる</p> <p>2回．歯髄疾患の症状，診査法および診断法を説明できる．歯髄疾患の鑑別診断を説明できる．無菌的処置を説明できる．</p> <p>3回．歯髄疾患の治療法；歯髄保存療法（歯髄鎮痛消炎，覆髄）を説明できる． 歯髄疾患の治療法；歯髄除去療法（歯髄切断法と抜髄法）を説明できる．</p> <p>4回．根尖性歯周疾患の概念とその進行を説明できる。 根尖性歯周疾患の症状，診査法および診断法を説明できる</p> <p>5回．根尖性歯周疾患の分類および鑑別診断ができる。 感染根管の概念を説明できる．</p> <p>6回．感染根管治療（根管の清掃，細菌検査，根管充填）および感染根管の補助療法を説明できる。 外科的歯内療法を説明できる．</p> <p>7回．ラバーダムの意義・目的を説明できる。 ラバーダムの装着ができる．</p>
授業形式	
	板書を中心として視覚素材（パワーポイント）を用いる。（講義）
教科書・参考書	
	保存修復学・歯内療法学，全国歯科衛生士教育協議会 編集，医歯薬出版 歯科写真文庫 ラバーダム防湿法実技，三田昭太郎 著，医歯薬出版
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯周病学
学 年	2年次
単 位	2単位
時間数	32時間（8回）
学習目標	
歯周療法の基礎知識、臨床への応用力を修得する。	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病とは 歯周組織の解剖・組織・生理 2. 歯周病の病理・病因 3. 歯周病の病態 歯周病の分類 4. 歯周病の検査 5. 歯周病の診断と治療の進め方 6. 歯周基本治療 7. 歯周外科治療 8. メインテナンス スライドによる視覚素材を用いての歯周治療学のまとめ 	
授業形式	
スライドによる視覚素材 ホワイトボードを用いての記述 講義	
教科書・参考書	
永末 歯科衛生士講座歯周病学 第4版	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科補綴学
学 年	2年次
単 位	2単位
時間数	32時間(8回)
学習目標	<p>歯科補綴学の目的は、歯質・歯・顎の欠損をクラウン、ブリッジ、義歯、インプラントなどの人工装置を用いて補い、顎口腔系の機能と審美性を回復させることである。補綴治療を円滑に進めるためには、専門的教育が行われた歯科衛生士の協力は必然であることから本講義では歯科補綴学の基本的知識と診療補助、術前・術中・術後口腔ケア、補綴装置の管理などが行える知識を習得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>① 歯科補綴学の概要 補綴歯科治療の意義と目的・補綴装置について</p> <p>② 補綴歯科治療にかかわる基礎知識</p> <p>③ 歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療</p> <p>④ 補綴歯科治療における検査・診断</p> <p>⑤ クラウン・ブリッジ治療の実際</p> <p>⑥ 床義歯治療の実際</p> <p>⑦ インプラント治療の実際</p> <p>⑧ 補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割</p>
授業形式	
講義	
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴学 医歯薬出版
評価の方法	
筆記試験	
備考	<p>歯科補綴学では基礎となる解剖学、生理学、歯科材料の知識が不可欠であるため、該当科目の教科書なども参考にすると良い</p>

実務経験のある教員による授業科目

科目名	口腔外科学																			
学 年	2 年次																			
単 位	2 単位																			
時間数	3 2 時間 (8 回)																			
学習目標	<p>口腔外科疾患について学び、その処置および対応について理解する。また、清潔・不潔の区別ができ、適切な口腔外科処置の対応を学ぶ。治療術式・器具について理解し、的確な処置を行えるように履修する。</p>																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1 口腔外科と全身疾患との関連</td> <td>2 先天異常 (唇顎口蓋裂)・顎変形症</td> </tr> <tr> <td>3 外傷・損傷</td> <td>4 口腔粘膜疾患</td> </tr> <tr> <td>5 口腔領域の炎症性疾患</td> <td>6 顎関節疾患</td> </tr> <tr> <td>7 嚢胞性疾患</td> <td>8 腫瘍・前癌病変・腫瘍類似疾患</td> </tr> <tr> <td>9 唾液腺疾患</td> <td>10 神経疾患</td> </tr> <tr> <td>11 血液疾患と出血性素因</td> <td>12 口腔顔面の症候群</td> </tr> <tr> <td>13 診察と診断</td> <td>14 滅菌と消毒</td> </tr> <tr> <td>15 創傷処置</td> <td>16 抜歯術</td> </tr> <tr> <td>17 口腔外科小手術と診療介助</td> <td>18 口腔出血に対する処置法</td> </tr> </table> <p>疾患・介助について講義および画像を供覧する。 口腔外科診療における要点等を概説する。</p>		1 口腔外科と全身疾患との関連	2 先天異常 (唇顎口蓋裂)・顎変形症	3 外傷・損傷	4 口腔粘膜疾患	5 口腔領域の炎症性疾患	6 顎関節疾患	7 嚢胞性疾患	8 腫瘍・前癌病変・腫瘍類似疾患	9 唾液腺疾患	10 神経疾患	11 血液疾患と出血性素因	12 口腔顔面の症候群	13 診察と診断	14 滅菌と消毒	15 創傷処置	16 抜歯術	17 口腔外科小手術と診療介助	18 口腔出血に対する処置法
1 口腔外科と全身疾患との関連	2 先天異常 (唇顎口蓋裂)・顎変形症																			
3 外傷・損傷	4 口腔粘膜疾患																			
5 口腔領域の炎症性疾患	6 顎関節疾患																			
7 嚢胞性疾患	8 腫瘍・前癌病変・腫瘍類似疾患																			
9 唾液腺疾患	10 神経疾患																			
11 血液疾患と出血性素因	12 口腔顔面の症候群																			
13 診察と診断	14 滅菌と消毒																			
15 創傷処置	16 抜歯術																			
17 口腔外科小手術と診療介助	18 口腔出血に対する処置法																			
授業形式	<p>講義とパワーポイントによる画像閲覧、抜歯器具の確認</p>																			
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 (医歯薬出版)</p>																			
評価の方法	<p>筆記試験</p>																			
備考																				

実務経験のある教員による授業科目

科目名	小児歯科学
学 年	2 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
小児歯科学の基本的な知識を習得し、小児歯科診療への対応および診療補助について理解する。	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児歯科学概論、心身の発育、顔面頭蓋の発育 2. 歯の発育と異常、歯列・咬合の発育と異常 3. 乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕、小児の歯科疾患 4. 小児期の特徴と問題点、小児歯科診療体系 5. 患者の対応法、小児歯科における診療補助 6. 診療補助Ⅰ 診査、修復と歯内療法 7. 診療補助Ⅱ 外科的処置と咬合誘導 8. 障害児の歯科治療 	
授業形式	
パワーポイントを用いて講義を行う。	
教科書・参考書	
クインテッセンス出版株式会社 新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科矯正学
学 年	2 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
<p>歯科矯正の基礎と、矯正診療における歯科衛生士の役割について理解させる</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科矯正学概論 2. 成長、発育、咬合、口腔習癖 3. 成長、発育、咬合、口腔習癖 4. 矯正治療の生物力学 5. 矯正診断に関する知識 6. 矯正装置について 7. 歯科矯正治療の実際 8. 歯科矯正における歯科衛生士の役割 	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常 2 歯科矯正 (医歯薬出版)	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科放射線学
学 年	2 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
<p>エックス線を含む放射線に関する正しい知識を持ち、医療におけるエックス線の役割を認識することで、歯科治療におけるエックス線の重要性を理解してもらう。その上で診療補助内でのエックス線撮影装置の取り扱い、そして口外法および口内法撮影時の歯科衛生士としての手技と役割を修得する事を目指す。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線とエックス線 2. 歯科用エックス線装置/エックス線画像の形成 3. エックス線画像の形成/撮影法 (口内法) 4. 撮影法 (口内法) /撮影法 (口外法) 5. フィルム処理と取り扱い/デジタルエックス線システム 6. 撮影相互実習 7. 撮影相互実習/画像解説/放射線生物学 8. 放射線生物学/放射線防護 	
授業形式	
講義 スライド 実習	
教科書・参考書	
わかりやすい歯科放射線学 (学建書院)	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	麻酔・全身管理学（救急蘇生法含む）
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	28時間（7回）
学習目標	<p>歯科麻酔について理解でき、診療の介助ができる。 一次救命処置ができる。</p>
授業計画	<p>歯科麻酔（全身麻酔法、局所麻酔法、精神鎮静法）と、その介助について学ぶ。 歯科診療上注意すべき全身疾患について学ぶ。 歯科診療上問題となる合併症について学ぶ。 救急蘇生法について理解し、一次救命処置の実習を行う。</p>
授業形式	
講義5回 実習2回	
教科書・参考書	
歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学（学建書院）	
評価の方法	
筆記試験 100点満点 60点以上合格 一次救命処置実習試験 100点満点 100点合格 両試験に合格すること	
備考	
実習では、髪の毛は束ね、動きやすい服装・靴を着用すること	

科目名	歯科予防処置論 I	
学年	1 年次	
単位	2 単位	
時間数	40 時間 (10 回)	
一般目標	歯科予防処置についての専門知識と技術、及び態度を習得する目的を理解する為にその概要を学ぶ。歯周病を予防し、歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識、基本操作及び態度を習得する。	
授業項目	行動目標	
1. 歯科予防処置の概念 歯科衛生士の役割について 口腔の構造について	歯科予防処置の概念を述べる 予防処置における歯科衛生士の役割を述べる 正常な歯周組織を概説出来る	
2. 歯周疾患とは 全身疾患との関わりについて	歯周病の原因と分類、進行を説明出来る 歯周病と関連する生活習慣と全身疾患を述べる	
3. 歯周疾患予防の臨床 インスツルメントについて	歯周病の予防方法を説明出来る 使用する器具の種類や特徴を述べる	
4. インスツルメントの基本操作法	器具を執筆状変法把持法で把持する 適切な固定を置く事が出来る 前腕回転・手指屈伸・手根関節運動が出来る	
5. 口腔内診査法のトレーニング	探針、プローブの操作方法を述べる 顎模型上で適切に操作出来る	
6. シックルスケラー基本操作法	シックルスケラーを適切に操作出来る	
7. キュレットスケラー基本操作法	グレーシーキュレットスケラーを適切に操作出来る	
8. 実技試験		
9. ミラーテクニック ポジショニングトレーニング	ミラーを適切に操作できる 術者・患者のポジションを適切に設定出来る	
10. マネキン上での基本操作法	マネキンの取扱う事が出来る 顎模型を適切に取りつける事が出来る 正しい姿勢で適切に器具を操作出来る	

授業形式
講義・実習
教科書・参考書
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
評価の方法
<p>講義は、筆記試験にて評価</p> <p>実習は、マネキン上でのスケーラー操作の実技試験で評価</p> <p>実技試験で合格しなかった学生は、各自練習を積み、再試験を受ける</p> <p>成績は、筆記試験、実技試験、など総合的に評価する</p>

科目名	歯科予防処置論Ⅱ	
学年	2年次	
単位	2単位	
時間数	40時間（10回）	
一般目標	<p>適切なフッ化物局所応用法、小窩裂溝填塞法を実施するために、目的や実施条件、薬剤の取扱い等の知識を習得し、実践する能力を身につける。</p> <p>う蝕リスクについて理解し、低減を図るための予防プログラムを立案する。</p>	
授業項目	行動目標	
1. う蝕予防処置とは う蝕発生要因について う蝕活動性試験について	<p>う蝕予防処置の種類と歯科衛生士の役割を説明出来る</p> <p>う蝕の成り立ちと要因について説明出来る</p> <p>う蝕活動性試験の目的、種類を説明出来る</p>	
2. う蝕予防方法について フッ化物応用 フッ化物中毒 糖アルコール	<p>フッ化物局所応用に用いる薬剤の種類と特徴を述べる</p> <p>フッ化物急性中毒と慢性中毒について説明出来る</p> <p>フッ化物中毒量の算出が出来る</p> <p>う蝕予防に関わる糖アルコールについて説明出来る</p>	
3. フッ化物局所応用実習	<p>フッ化物歯面塗布法を実施出来る</p> <p>フッ化物洗口法の実施時の注意点を説明出来る</p> <p>フッ化物配合歯磨剤の効果的な使用方法を説明出来る</p>	
4. 予防プログラム・小窩裂溝填塞法	<p>う蝕活動性試験の判定に基づいた対処法を述べる</p> <p>小窩裂溝填塞法の種類や適応症、手順を述べる</p>	
5. 小窩裂溝填塞法相互実習	<p>小窩裂溝填塞法を適切に実施出来る</p>	
6. フッ化物歯面塗布法の集団応用	<p>チーム法によるフッ化物歯面塗布法の集団応用を実施出来る</p>	
授業形式		
講義・実習		
教科書・参考書		
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		
評価の方法		
講義は、単位試験にて評価 実習は、実習態度・実習毎のレポート提出により評価 成績は、単位試験、実習レポートなど総合的に評価する		

科目名	歯科予防処置論Ⅲ	
学年	1年次	
単位	2単位	
時間数	48時間（10回）	
一般目標		
<p>マネキンを使用し術者と患者の位置関係を理解するとともに、部位別のスクレーリング操作法を習得する。</p> <p>手用スクレーラーのシャープニング法を習得する。</p> <p>模型上で、歯面研磨の基本操作を習得する。</p>		
授業項目	行動目標	
1. 下顎前歯部のマネキン実習	基本姿勢で操作ができる	
2. 上顎前歯部のマネキン実習	模型を利用し、手用スクレーラー（シッケル、キュレット）	
3. 下顎右側臼歯部のマネキン実習	の基本操作法を身につける	
4. 下顎左側臼歯部のマネキン実習	部位別に応じたキュレットスクレーラーを選択できる	
5. 上顎右側臼歯部のマネキン実習	部位別に応じたポジションを身につける	
6. 上顎左側臼歯部のマネキン実習	デンタルミラーの用途を列挙できる	
7. 実技試験		
8. 各種手用スクレーラーのシャープニング	シャープニングの目的を説明できる	
	用途に応じた砥石を選択できる	
	手用スクレーラーのシャープニングができる	
9. 歯面清掃・研磨の基礎知識、マネキン実習	歯面清掃・研磨の目的、特徴を説明できる	
	歯面清掃・研磨に使用する器具器材を列挙できる	
	歯面清掃・研磨の操作方法、手順を述べる	
授業形式		
講義・実習		
教科書・参考書		
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		
評価の方法		
講義は、単位試験にて評価		
実習は、マネキン上でのスクレーラー操作の実技試験で評価		
実技試験で合格しなかった学生は、各自練習を積み、再試験を受ける		
成績は、単位試験、実技試験、など総合的に評価する		

科目名	歯科予防処置論Ⅳ	
学年	2年次	
単位	2単位	
時間数	60時間 (15回)	
一般目標	<p>基礎実習とマネキン実習で身につけた技術を使って相互実習をする事で、実践で活かせる技術を習得する。又、術者役、補助者役、患者役の経験を通じて、それぞれの立場での心構えや技術を習得する。</p> <p>口腔内診査の方法を理解し、口腔内を観察できる能力を養う。</p> <p>超音波スケーラー・エアースケーラーの操作法を習得する。</p> <p>PMT Cの方法を習得する。</p>	
授業項目	行動目標	
1. 相互実習の為の基礎知識 感染予防、偶発事故の予防とその対策	相互実習により患者との接し方や態度を身につける 清潔域・不潔域の区別を理解し実践する 偶発事故についての対処法を説明できる 歯石除去操作の中での医療事故防止を説明できる	
2. 口腔内診査について 口腔内診査法のマネキンによる実習	プロービングの目的、得られる情報、測定時の注意事項について説明できる	
3. 口腔内診査の相互実習	プロービングの操作が的確にできる 測定値を正しく読み取ることができる	
4. 下顎前歯部の相互実習	ミラーテクニック、探針操作に熟練する 鋭利な器具を安全に操作する キュレットスケーラーによる部位別の歯石除去が実施できる	
5. 上顎前歯部の相互実習		
6. 下顎右側臼歯部の相互実習		
7. 下顎左側臼歯部の相互実習		
8. 上顎右側臼歯部の相互実習		
9. 上顎左側臼歯部の相互実習		
10. 超音波スケーラー、エアースケーラーの基礎実習	超音波スケーラー・エアースケーラーの特徴と使用方法を説明できる	
11. 超音波スケーラー、エアースケーラーの相互実習	超音波スケーラー・エアースケーラーの使用法を身につける	
12. PMT Cの相互実習	歯面清掃・研磨用器具、器材を選択し、操作が的確にできる 洗浄の種類、方法を身につける	

授業形式
講義・実習
教科書・参考書
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
評価の方法
<p>講義は、単位試験にて評価</p> <p>実習は、実習態度・実習毎のレポート提出により評価</p> <p>成績は、単位試験、実習レポートなど総合的に評価する</p>

科目名	歯科予防処置論Ⅴ	
学年	3年次	
単位	1単位	
時間数	30時間(8回)	
一般目標	<p>基礎実習・相互実習で習得した手技を、臨床に即した実習の中で展開させ、臨床現場で実践できる能力を養う。</p> <p>対象者の状況を把握し、メンテナンスの方向づけができる能力を養う。</p>	
授業項目	行動目標	
1. 模擬患者実習オリエンテーション	歯科衛生介入の重要性を説明できる	
2. 患者実習における 口腔内診査と情報収集について	口腔内の観察項目とポイントを列挙できる	
3. 模擬患者実習に向けての相互実習	ユニット、器具、器材を衛生的に使用し、管理できる 偶発事故に対して冷静に対応することができる	
4. 模擬患者実習 1回目 アセスメント(情報収集)	対象者から計画立案に必要な情報を集めることができる 口腔内状況の把握および評価ができる	
5. 模擬患者実習に向けての相互実習	実習で身に付けた技術を実施できる	
6. 模擬患者実習 2回目 歯科衛生介入	計画立案に基づいた処置を実施できる 対象者を把握し、予防管理法を患者に説明できる	
7. メンテナンスについて	メンテナンスの目的、必要性を説明できる メンテナンス時の評価項目と方法、処置について説明できる	
8. 実施計画立案・継続管理について (現場の話)	臨床での症例を交えた計画立案・継続管理の方法を学ぶ	
授業形式		
講義・実習		
教科書・参考書		
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		
評価の方法		
講義は、単位試験にて評価 実習は、実習態度・実習毎のレポート提出により評価 成績は、単位試験、実習レポートなど総合的に評価する		
備考		
歯科保健指導論Ⅲと並行して実施する。		

科目名	歯科保健指導論 I	
学年	1 年生	
単位	3 単位	
時間数	90 時間 (23 回)	
一般目標	<p>1. 歯科保健の概念を理解し、基本的な歯科保健指導の知識と技術を身に付ける。</p> <p>2. ライフステージ別に口腔環境の実際を理解し、生活背景を理解した上で望ましい歯科保健行動を指導できる知識と技術を身に付ける。</p>	
授業項目	行動目標	
1. 歯科保健について (概念・基本的用語・関係法令)	<p>歯科衛生士の法的な位置付けと歯科保健指導の定義を説明できる</p> <p>健康の定義と、健康戦略（プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション）を説明できる</p>	
2. 口腔の正常像理解と機能理解・初期病変の理解について	<p>正常な歯と口腔の形態説明ができる</p> <p>口腔の機能が説明できる</p> <p>う蝕と歯周病を概説できる</p>	
3. 口腔内観察方法について	<p>口腔内の付着物・沈着物を列挙し、説明ができる</p>	
4. 口腔内観察実習	<p>口腔清掃状態を観察できる</p> <p>口腔の機能を観察できる</p> <p>歯と口腔の疾患と異常の観察ができる</p>	
5. 口腔清掃指導法について (ブラッシング方法・補助清掃用具の種類使用方法など)	<p>歯ブラシの形態と特徴を説明できる</p> <p>各種ブラッシング方法を説明、実施できる</p> <p>補助清掃用具の種類と特徴を説明できる</p>	
6. 口腔清掃実習	<p>補助清掃用具の使用方を説明、使用できる</p> <p>歯磨剤、洗口剤について説明できる</p> <p>う蝕・歯周病のリスクに応じた口腔清掃法の指導ができる</p>	
7. 口腔内の評価指標について (PCR・OHI など)	<p>口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる</p>	
授業項目	行動目標	

<p>8. 歯科保健行動について (日常生活と歯科保健の関係)</p> <p>9. ライフステージ別の口腔環境 変化・生活環境変化について (摂食嚥下機能の基礎知識を含む)</p> <p>10. ライフステージ別の歯科保健 行動(妊産婦)について</p> <p>11. ライフステージ別の歯科保健 行動(乳幼児期)について</p> <p>12. ライフステージ別の歯科保健 行動(学童・青年期)について</p> <p>13. ライフステージ別の歯科保健 行動(成人期)について</p> <p>14. ライフステージ別の歯科保健 行動(老年期)について</p> <p>15. ライフステージ別の歯科保健 行動(要介護老人・心身障害者) について</p> <p>(14, 15 では、口腔ケアの介助や口 腔機能維持向上の為のリハビリテー ション方法、Manabot 実習などを含 む)</p>	<p>近年の食生活の事情を説明できる</p> <p>食品(主に糖類)とう蝕の関係性が説明できる</p> <p>日常生活(喫煙を含む)とう蝕・歯周病の関係性が 説明できる</p> <p>加齢的な口腔機能の変化を説明できる</p> <p>ライフステージ毎の生活環境変化を説明できる</p> <p>ライフステージ毎の一般的特徴、口腔の特徴、歯科 保健行動を説明できる</p> <p>ライフステージ毎の生活スタイルを理解し、歯科保 健指導できる</p> <p>ライフステージ毎の食生活指導ができる</p>
<p>授業形式</p>	
<p>講義・実習</p>	
<p>教科書・参考書</p>	
<p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)</p>	
<p>評価の方法</p>	
<p>講義は、筆記試験で評価する。</p> <p>実習は、実習中の態度・技能・レポートを評価する。</p> <p>小テストなどを実施した場合、必要に応じて評価する。</p> <p>成績は、上記の総合評価とする。</p>	

科目名	歯科保健指導論Ⅱ	
学年	2年生	
単位	3単位	
時間数	90時間(23回)	
一般目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 的確に対象者の把握とその情報整理が行え、対象者の問題解決プロセスを組み立てることができる知識と技術を身に付ける。 2. 業務記録を作成する知識と技術を身に付ける。 3. POS理論を理解し応用できる知識と技術を身に付ける。 4. 小集団指導の知識と技術を身に付ける。 5. 要介護者(障害者・高齢者・有病者など)への口腔のケアの知識と技術を身に付ける。 		
授業項目	行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科保健指導の考え方と手順について 歯科衛生過程について 2. 対象の把握について 3. 面接・問診法について 4. 情報収集・整理法について 5. 診療録と業務記録について 6. POS理論について 7. 小集団への歯科保健指導について 8. 要介護者(障害者・高齢者・有病者など)への口腔のケアの対応について 	<p>行動変容に関連する理論を説明できる 個人と集団の歯科保健指導の流れを説明する 歯科衛生過程の概要を説明できる</p> <p>対象者の日常生活習慣を把握できる 対象者の歯科的・全身的な状態を把握できる 対象者に適切な話法でコミュニケーションがとれる</p> <p>POS理論に基づいた業務記録の作成ができる (SOAPを用いて)</p> <p>小集団指導の手順を説明する 対象集団の場の把握・指導内容の選択・媒体の選択ができる</p> <p>介助用口腔ケア用品の使用方法を説明できる。 介助用口腔ケア用品を対象者の口腔内で操作できる。 対象者を観察し、必要な口腔のケアを計画できる。 (Manabot 実習を含む)</p>	
授業形式		
講義・演習(演習はレポートを提出してもらう。)		
教科書・参考書		
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
評価の方法		
筆記試験で評価する。小テストなどを実施した場合、必要に応じて評価する。 成績は、上記の総合評価とする。		

科目名	歯科保健指導論Ⅲ	
学年	3年生前期	
単位	1単位	
時間数	30時間(8回)	
一般目標	今まで学んだ知識を生かし、歯科衛生過程の考え方を取り入れた症例検討の知識と技術を身に付ける。	
授業項目	行動目標	
1. 歯科衛生過程・アセスメント (情報収集・処理)について	歯科衛生過程の各プロセスを説明できる	
2. アセスメント(情報分析)・歯科 衛生診断	歯科衛生過程を展開できる 歯科衛生アセスメントができる	
3. 歯科衛生計画立案	歯科衛生診断ができる	
4. 歯科衛生評価	歯科衛生計画立案ができる 歯科衛生評価ができる 各過程で適宜記録を作成できる	
5. 症例検討と報告作成	自分の思考過程をわかりやすく表現し、症例発表が できる	
6. 症例報告(1人10分)		
授業形式		
講義・実習		
教科書・参考書		
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
評価の方法	成績は、症例報告の発表と模擬患者実習のレポート(歯科衛生過程の記録)を評価する。	
備考	歯科予防処置論Ⅴと連動して実施する。 歯科予防処置論Ⅴで実習した模擬患者の症例で展開していく。	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科診療補助論 I
学年	1 年生
単位	2 単位
時間数	3 2 時間 (8 回)
学習目標	
歯科診療補助の概念を理解するとともに、基礎知識を習得する	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科診療補助の意味 歯科診療の補助・介助 法的責任 2. 歯科診療の流れ 共同動作の基本 診療室の管理 環境の整備 薬品の管理 事務的管理 3. 感染予防対策 4. 診療器材・診療設備の取り扱い 5. 患者誘導について 6. 患者誘導実習① 7. 患者誘導実習② 8. 使用器材・器械のメンテナンス 	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
<p>最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科機器」(医歯薬出版)</p> <p>「感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄」(医歯薬出版)</p>	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科診療補助論Ⅱ
学年	1年生
単位	1単位
時間数	40時間(10回)
学習目標	共同動作の意義を理解し、安全・確実に実施できる知識・技術を習得する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔内洗浄・バキューム操作について 実習 2. 衛生材料(綿球 綿花 ガーゼ)作製実習 3. 器具の受け渡しについて 実習 4. ラバーダム防湿について 診療室の環境設備、患者対応について 5. ラバーダム防湿実習 6. 歯科診療で扱う歯科材料 印象採得 スタディモデル作製について 7. 印象採得、スタディモデル作製実習1 8. 印象採得、スタディモデル作製実習2 9. 印象採得、スタディモデル作製実習3 10. 印象採得、スタディモデル作製実習4
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科診療補助論Ⅲ
学年	2年生
単位	1単位
時間数	40時間(10回)
学習目標	共同動作の意義を理解し、安全・確実に実施できる知識・技術を習得する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔内写真について 2. 口腔内写真撮影実習 3. 保存・補綴治療時の診療補助 4. 口腔外科・矯正歯科治療時の診療補助 5. 小児歯科・高齢者歯科治療時の診療補助 6. トレーセッティング実習1 7. トレーセッティング実習2 8. 暫間被覆冠について 9. 暫間被覆冠作製実習 10. 全身疾患をもつ患者と歯科診療補助
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版)</p>
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床検査学
学 年	2 学年
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (4 回)
学習目標	<p>慢性疾患を有している患者の歯科治療の機会が増加している。このような患者に最初に接することが多い歯科衛生士が患者とのコミュニケーションを良好に保つために、臨床検査の概要を把握するとともに、歯科来院患者で比較的遭遇することの多い疾患とその検査法、および検査データが示す意味を理解する。</p>
授業計画	<p>【講義】 臨床検査学総論 生体検査と検体検査 検査成績の読み方 各論—検体検査 (1) 一般検査……尿 血液検査……血球 各論—検体検査 (2) 血液生化学検査、免疫検査……血漿 肝機能、糖尿病、感染症 各論—検体検査 (3) 病理検査……組織・細胞 口腔領域の臨床検査</p> <p>【実習】 糖負荷試験 (血糖値測定)</p>
授業形式	講義 (2 回) および実習 (2 回)
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本 臨床検査 (医歯薬出版)
評価の方法	歯科衛生士国家試験に準じた MCQ 形式の問題にて総括的評価を行う。
備考	将来受験する歯科衛生士国家試験のために有用なノートを丁寧に作成すること。

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科材料学 I
学年	2 年生
単位	1 単位
時間数	2 8 時間 (7 回)
学習目標	
<p>一般目標</p> <p>歯科衛生士としての資質を高め、業務を円滑に行うため、歯科材料の種類、目的、用途について基礎知識を習得する。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科材料と歯科衛生士・歯科材料の基礎知識 2. 歯科衛生にかかわる材料・成形修復材 3. 印象材 4. 模型用材料・合着剤と接着剤 5. 仮封材・暫間修復材と仮着用セメント・ワックス 6. 金属・セラミック・その他の歯科材料 7. 復習講義 	
授業形式	
講義(スライド講義・パワーポイント)	
教科書・参考書	
歯科材料	
評価の方法	
単位試験にて評価 60 点以上合格	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	歯科材料学Ⅱ
学年	2年生
単位	1単位
時間数	32時間(8回)
学習目標	歯科材料学Ⅰで学習した各材料の組成、性状を十分理解したうえで、確実な取扱い方法を習得する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 石膏の取扱い実習 2. 合着材・接着材の取扱実習1 (リン酸亜鉛セメント・カルボキシレートセメント・ガラスアイオノマーセメント) 3. 合着材・接着材の取扱実習2 (接着レジンセメント他) 4. 仮封材・仮着材の取扱実習 5. その他材料の取り扱い実習 6. 印象採得・石膏実習1 7. 印象採得・石膏実習2 8. 印象採得・石膏実習3
授業形式	講義・実習
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版)</p>
評価の方法	筆記試験
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	感染予防
学 年	2年次
単 位	1単位
時間数	16時間（4回）
学習目標	
感染予防の重要性を認識し、施設内感染の複雑・多様化に対応できる知識を身につける	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の基本 スタンダードプレコーション 2. 滅菌・消毒・洗浄の基本 3. 歯科診療における感染予防対策の実際 医療廃棄物の処理 4. 医療従事者の感染予防対策 	
授業形式	
講義とパワーポイントによる画像閲覧、動画による感染対策の確認	
教科書・参考書	
歯科医療における 新 感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	高齢者歯科
学 年	2年次
単 位	2単位
時間数	32時間（8回）
学習目標	高齢者は全身的・心理的・社会的において一般成人と同等に扱うことは出来ない。歯科領域でも同じである。そこで歯科衛生士として必要な高齢者の特徴を理解し、高齢者に対する歯科診療の介助、口腔ケアおよび対応について習得する。
授業計画	<p>1回 高齢者を取り巻く社会 高齢者の年齢区分、高齢化の現状と将来 など</p> <p>2回 加齢の科学 老化の定義・機序、高齢者の組織・器官・身体機能の変化、顎口腔系の加齢的变化 など</p> <p>3回 高齢者における口腔領域の疾患 高齢者のう蝕・歯内疾患・歯周疾患の特徴、高齢者に多い口腔粘膜疾患、口腔乾燥症について など</p> <p>4回 全身状態の把握と対応 高齢患者とのコミュニケーション・医療面接・介助 高齢者に多い全身疾患と口腔・歯科治療との関係 など</p> <p>5回 高齢者歯科医療の場 生活自立度、介護保険法、介護保険法の創設・背景と現状、介護予防、訪問歯科診療の意義 など</p> <p>6回 口腔衛生管理 口腔ケアの定義・効果、要介護者および介護者の口腔ケアとの関わり 終末期の口腔ケア、義歯の取り扱い方法 など</p> <p>7回 摂食嚥下障害と対応（概要） 摂食嚥下機能、摂食嚥下障害、摂食嚥下障害の検査法、摂食嚥下障害への対応、構音障害への対応 など</p> <p>8回 高齢者の栄養管理と他職種連携 高齢者の栄養管理、栄養サポートチーム（NST）の役割 他職種連携 など</p>
授業形式	
講義 実習	
教科書・参考書	
高齢者歯科	
評価の方法	
筆記試験による点数にて評価	
備考	

科目名	摂食嚥下リハビリテーション学
学 年	3年次
単 位	1単位
時間数	16時間（4回）
学習目標	歯科衛生士として摂食嚥下に関わる機能の獲得や障害について理解し、リハビリテーションやチームアプローチの方法を習得する。また、口腔機能低下についての理解を深める。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食・嚥下について （辻本先生） <ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下のメカニズム ・摂食・嚥下障害とは：原因となるもの 影響を与える薬剤 2. 摂食嚥下障害の基礎知識 （貴島先生） 3. 口腔機能低下と口腔機能療法について （貴島先生） <ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能低下症とは ・測定の方法、使用器具 ・口腔機能療法とは 4. 摂食・嚥下障害について （瀬尾先生） <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下の解剖・生理 ・スクリーニングテスト・モニター ・嚥下造影検査（VF）について ・摂食嚥下訓練の実際
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
評価の方法	
出席状況により評価	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	障害者歯科
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	20 時間 (5 回)
学習目標	
<p>障害の種類、障害者の歯科的特徴、障害者の歯科治療方針と処置、障害者の行動管理および障害者の口腔保健指導などの障害者歯科学の基本的知識について習得する。</p>	
授業計画	
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.障害者の現状、障害者の歯科診療 2.障害の種類と歯科的特徴、障害者と薬剤 3.障害者歯科における歯科衛生士の役割と診療補助 4.障害者の口腔保健管理と歯科保健指導 	
授業形式	
<ol style="list-style-type: none"> 1.教科書に基づく講義 2.Power Point での写真とビデオによる説明 	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 障害者歯科、医歯薬出版	
評価の方法	
筆記試験（記述問題）	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床実習 I
学 年	1 年生 後期
単 位	1 単位
時間数	4 5 時間 (8 回)
一般目標	
<p>歯科診療所での見学実習を通して、医療人としての心構えや姿勢を学ぶ。 歯科治療の流れや歯科衛生業務を見学し、2 年次から開始する臨床講義の理解を深める。</p>	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 清潔・不潔の概念を理解し感染予防ができる 3. 歯科治療の流れを理解する 4. 患者誘導をする 	
実習施設	
<p>歯科診療所</p>	
備考	
<p>実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価</p>	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床実習Ⅱ
学 年	3年生 前期
単 位	3単位
時間数	135時間(23回)
一般目標	
<p>大学病院の特性を理解し、各診療科において知識・技術を身につける。 また清潔・不潔の概念を踏まえ大学病院での感染予防対策を学ぶ。</p>	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 各診療科の治療内容を説明することができる 3. 器材の準備ができる 4. 標準予防策を説明することができる 5. 清潔・不潔の概念を理解し感染予防ができる 	
実習施設	
大阪歯科大学附属病院	
備考	
<p>実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価</p>	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床実習Ⅲ
学 年	3年生 前期・後期
単 位	3単位
時間数	135時間(23回)
一般目標	
<p>一般病院の特性を理解し、歯科・口腔外科に必要な知識・技術を身につける。 また清潔・不潔の概念を踏まえ病院での感染予防対策を学ぶ。</p>	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 歯科・口腔外科の治療内容を説明することができる 3. 器材の準備ができる 4. 標準予防策を説明することができる 5. 清潔・不潔の概念を理解し感染予防ができる 	
実習施設	
<p>奈良県立医科大学附属病院 天理よろづ相談所病院 奈良春日病院 平成記念病院 服部記念病院 高井病院 奈良県総合医療センター</p>	
備考	
<p>実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価</p>	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床実習Ⅳ
学 年	2年生・後期
単 位	5単位
時間数	225時間（38回）
一般目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての倫理観を養い、良い対人関係を保つためのコミュニケーション能力を身につける 2. 診療目的および内容を理解し、基本的な共同動作を習得する 3. 歯科治療で使用する材料、薬品の性質を理解する 4. 感染予防に対する知識を習得し、安全に医療が行える技術を身につける 	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として適切な身だしなみを整えることができる 2. 対象者に応じた正しい敬語や挨拶、返事ができる 3. 患者にいたわりを持ち、良好なコミュニケーションを図ることができる 4. スタッフと良好な関係を築き、協力して仕事を進めることができる 5. 歯科治療の術式および器材の用途を述べるができる 6. 器材の準備ができる 7. 適切なバキューム操作ができる 8. 標準予防策を説明することができる 9. 診療所内のルールに則り感染予防ができる 10. 診療室内の環境を整えることができる 	
実習施設	
歯科診療所	
備考	
<p>実習 （評価の方法）出席率及び到達度評価</p>	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	臨床実習Ⅴ
学 年	3年生 前期・後期
単 位	6単位
時間数	315時間（45回）
一般目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場における歯科衛生士の使命を理解する 2. 患者をより理解するためのコミュニケーション技術を身につける 4. 歯科医療現場におけるチームアプローチを理解する 5. 診療補助業務を適切に遂行し、応用展開できる能力を身につける 6. う蝕と歯周病の基礎知識を基に、予防業務が適切に行える能力を身につける 7. 各ライフステージにおける歯科保健行動を指導する能力を身につける 8. 歯科衛生プロセスを理解し、論理的思考能力を養う 	
行動目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の状態に応じて適切な援助ができる 2. 言語的・非言語的コミュニケーションを効果的に行うことができる 3. 自ら進んで問題解決に結びつく行動を起こすことができる 4. 口腔を観察し状態を把握できる 5. 状況を判断し適切な診療補助ができる 6. 対象に応じた予防業務ができる 7. 対象に応じた保健業務ができる 8. 対象に応じた歯科衛生プロセスを構築することができる 	
実習施設	
歯科診療所	
備考	
<p>実習</p> <p>（評価の方法）出席率及び到達度評価</p>	

科目名	臨地実習
学 年	3 年生
単 位	2 単位
時間数	90 時間 (15 回)
一般目標	
各臨地実習施設での歯科衛生士の役割を理解し、活動の場を知る。 多職種との連携において、歯科衛生士の専門性がどのように活かされているかを理解し チームアプローチを学ぶ。	
行動目標	
1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 各実習施設において歯科衛生士の役割を説明することができる 3. 対象者に応じた歯と口腔の健康支援ができる 4. 多職種の専門性を理解し、協働することができる	
実習施設	
心身障害者歯科 障害者施設 県下保健所 幼稚園 介護施設 自衛隊幹部候補生学校 ほか	
備考	
実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	総合領域Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
学 年	3年生
単 位	6単位
時間数	96時間(24回)
学習目標	国家試験対策として専門基礎および専門分野の復習講義を実施し、知識の再確認に努める。
授業計画	<p>①専門基礎講義 (解剖学 口腔解剖学 生理学 生化学 病理学 微生物学 薬理学 衛生学 口腔衛生学Ⅰ、Ⅱ)</p> <p>②専門分野講義 (保存修復学 歯内治療学 歯周病学 歯科補綴学 口腔外科学 小児歯科学 歯科矯正学 歯科放射線学 麻酔学 臨床検査 高齢者歯科学 障害者歯科 歯科予防処置 歯科保健指導 歯科診療補助)</p>
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
各教科書	
評価の方法	
単位試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	介護技術
学 年	2年次
単 位	2単位
時間数	40時間（10回）
学習目標	高齢期を迎える前からの健康管理への備えや地域での高齢者支援を学び、自立に向けた高齢者介護の知識・技術を習得する
授業計画	<p>1. 高齢者の健康と安全 健康な高齢者を目指して、高齢者の理解、事故の予防と手当・急病への対応</p> <p>2. 地域における高齢者支援 支援活動とは、支援活動における高齢者の理解、支援活動にあたって ほか</p> <p>3. 日常生活における介護 介護にあたって、居室の環境、移動、車椅子への移乗、食事、排泄 着替え、清潔、認知症高齢者への対応、床ずれについて ほか</p>
授業形式	
講義・演習	
教科書・参考書	
健康生活支援講習テキスト（日本赤十字社）	
評価の方法	
認定試験（40分）	
備考	

科目名	看護概論			
学 年	2年次			
単 位	1単位			
時間数	16時間（4回）			
学習目標	<p>1. 看護の概念の学習を通して、歯科衛生士の職業観を育む機会とする。</p> <p>2. 歯科衛生士の業務に用いることのできる看護の対象の理解・看護の方法・看護技術を学び、臨床の場で対象に応じた援助ができる力を身につける</p> <p>3. 地域での看護の活動を学び、チームケアの意義・多職種との連携・制度の活用を理解し、歯科衛生士の役割・活動分野の拡大について考えることができる。</p>			
授業計画	<table border="1"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>I. 看護の概念</p> <p>1. 看護の歴史</p> <p>2. 看護とは（定義）</p> <p>3. 健康の概念</p> <p>4. 看護の対象</p> <p>5. 看護の方法</p> <p>6. 看護活動の場</p> <p>7. 歯科衛生士の役割</p> <p>II. 看護の方法論</p> <p>1. 看護過程と記録</p> <p>2. 観察の技術</p> <p>3. コミュニケーション</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>4. 対象者別の接し方</p> <p>5. 安全・安楽を守る技術</p> <p>6. 日常生活の援助技術</p> <p>7. 診療医の補助技術</p> <p>8. 緊急時の対応</p> <p>9. 状況別看護</p> <p>III. 在宅看護</p> <p>1. 在宅医療を必要とする社会的背景と施策</p> <p>2. 高齢者を支える制度と社会資源</p> <p>3. 保健・福祉・医療チームの連携</p> <p>4. 訪問の実際</p> </td> </tr> </table>		<p>I. 看護の概念</p> <p>1. 看護の歴史</p> <p>2. 看護とは（定義）</p> <p>3. 健康の概念</p> <p>4. 看護の対象</p> <p>5. 看護の方法</p> <p>6. 看護活動の場</p> <p>7. 歯科衛生士の役割</p> <p>II. 看護の方法論</p> <p>1. 看護過程と記録</p> <p>2. 観察の技術</p> <p>3. コミュニケーション</p>	<p>4. 対象者別の接し方</p> <p>5. 安全・安楽を守る技術</p> <p>6. 日常生活の援助技術</p> <p>7. 診療医の補助技術</p> <p>8. 緊急時の対応</p> <p>9. 状況別看護</p> <p>III. 在宅看護</p> <p>1. 在宅医療を必要とする社会的背景と施策</p> <p>2. 高齢者を支える制度と社会資源</p> <p>3. 保健・福祉・医療チームの連携</p> <p>4. 訪問の実際</p>
<p>I. 看護の概念</p> <p>1. 看護の歴史</p> <p>2. 看護とは（定義）</p> <p>3. 健康の概念</p> <p>4. 看護の対象</p> <p>5. 看護の方法</p> <p>6. 看護活動の場</p> <p>7. 歯科衛生士の役割</p> <p>II. 看護の方法論</p> <p>1. 看護過程と記録</p> <p>2. 観察の技術</p> <p>3. コミュニケーション</p>	<p>4. 対象者別の接し方</p> <p>5. 安全・安楽を守る技術</p> <p>6. 日常生活の援助技術</p> <p>7. 診療医の補助技術</p> <p>8. 緊急時の対応</p> <p>9. 状況別看護</p> <p>III. 在宅看護</p> <p>1. 在宅医療を必要とする社会的背景と施策</p> <p>2. 高齢者を支える制度と社会資源</p> <p>3. 保健・福祉・医療チームの連携</p> <p>4. 訪問の実際</p>			
授業形式	講義・GW			
教科書・参考書	歯科衛生士のための看護学大意（医歯薬出版）			
評価の方法	筆記試験			
備考				

科目名	情報処理
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	20 時間 (5 回)
学習目標	
<ul style="list-style-type: none"> • コンピュータの起動、終了、ウィンドウの操作、ファイルの管理等 Windows の基本操作を習得する。 • インターネットを利用する上でのマナーと注意点を学習する。 • Office2016 (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作を習得し、レポートやプレゼン資料が作成できるようになる。 	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. Windows の基本操作・インターネット利用のマナーと注意点 文字の入力 2. Word① (基本的なビジネス文書の作成) 3. Word② (表を活用した文書の作成) 4. Word③ (画像を活用した文書の作成) 5. Excel① (表の作成・基本的な関数の利用) 6. Excel② (グラフの作成・条件判定) 7. Excel③ (セルの参照と順位付け・並べ替え・フィルタ) 8. PowerPoint① (基本操作) 9. PowerPoint② (課題作成) 10. PowerPoint③ (発表) 総復習 (試験対策) 	
授業形式	
コンピュータを使用した実習形式	
教科書・参考書	
「30 時間でマスターoffice2016」 実教出版	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	保険請求事務
学 年	3 年次
単 位	1 単位
時間数	2 8 時間 (7 回)
学習目標	医療保険制度のあり方を学び、診療報酬明細書の記載方法など、歯科衛生士が身につけるべき歯科保険医療の具体的な実務について理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度について 2. 福祉医療費助成制度について 3. 社会保険歯科診療報酬点数表の見方 4. カルテ、レセプトに使用できる略称について 5. 診療報酬明細書および請求書について 6. 歯と口の治療管理 7. 用語・指導・管理について
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
	社会保険委員会より準備される資料
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	接遇マナー講習
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (8 回)
学習目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代マナーの必要性を感じて頂く。 ・ 社会に出た時に、不自由をしないよう学んで頂く。 ・ 社会でコミュニケーションを上手くとれるようにする。 	
授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰にでも必要であり就職してからなどの時期を選ばず必要であることを理解して頂く。 ・ 例えば、敬語などすぐにできると思えるようなことを実際話してもらうことで難しく、以外にできないことを知って頂き、日頃から意識し、訓練が必要であると感じて頂く。 ・ おじぎ、挨拶、敬語、立居振舞いなどの基本的なことから動作を中心に授業を行う。 ・ 基本をふまえて、ビジネスマナーの基本である電話応接、接遇マナーを学んで頂く。 ・ 就職にそなえての面接のマナーをしながら実技を通して今まで学んだ基本ができているかチェックする。 ・ 知識面においても、まとめテストを行うことで確認をする。 	
授業形式	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技（動作）中心。（実技演習） ・ 対話形式で、一方的に教えるのではなく、できるだけ多くの生徒に質問したり動作をしてもらい、それぞれ考えて頂きながら授業を進める。 	
教科書・参考書	
作成したレジメ使用。	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	音楽	
学 年	1 年次	
単 位	1 単位	
時間数	1 6 時間 (8 回)	
学習目標		
◆音楽への興味と関心を養い、音楽表現の豊かさや美しさを感じとる。入学式、卒業式、戴帽式で力一杯歌い、充実感と満足感を味わうための表現力や歌唱力を育てる。		
授業計画		
1. 歌唱 「翼をください」	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に関心を持ち、歌うことへの意欲を高める。 ・正しい姿勢を身につける 	
2. 「美女と野獣」	<ul style="list-style-type: none"> ・2つパートに分かれて演奏し、ハーモニーを楽しみ感じとる。 	
3. 「校歌」	<ul style="list-style-type: none"> ・音程、リズムを正確に歌う。 ・発声に注意しながら歌う習慣を身につける。 	
4. 音楽用語 「ビリーブ」	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽用語について理解する。 ・楽譜の中に出てくる記号、用語について理解する。 	
5. 「365 日の紙飛行機」	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の発音に注意して、表現を工夫できるようにする。 	
6. 鑑賞 「 アイダ」	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構成や要素などを理解し、自分なりの観点を持ってその音楽のよさや美しさを聴こうとする能力を伸ばす。 	
7. 「キセキ」 8.	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の内容を大切に歌唱する。 ・ハーモニーを感じながら合唱する。 ・声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する能力を育てる。 	
授業形式		
◆合唱・鑑賞（実技演習）		
教科書・参考書		
◆「美女と野獣」「校歌」「ビリーブ」「365 日の紙飛行機」「アイダ」		
評価の方法		
◆出席点（80点） 意欲・態度点（20%）		
備考		
◆生涯にわたり音楽を愛する心を育てるとともに、仲間と共に合唱する喜びを分かち合う。		

科目名	体育（肩こり腰痛予防体操）
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（8 回）
学習目標	<p>体を動かしながら腹式呼吸法を取り入れることで、酸素が頭にめぐり日々のストレスを分散させ、リラックス効果を得る。</p> <p>また、肩こり腰痛予防のストレッチ体操や筋力トレーニングを習得することで、疲労回復、肩こり腰痛予防に役立つ。</p>
授業計画（案）	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ストレッチ体操の説明・実践 2. 自分の身体の状態を把握する（姿勢・バランス） 3. ストレッチ体操の基礎・実践 4. 体幹トレーニングの基礎・実践 5. 有酸素運動の基礎・実践 6. 〃 7. ヨガ・ピラティスの実践、リラクゼーションの基礎と方法 8. 振り返りの実技テスト・まとめ
授業形式	
実技演習	
教科書・参考書	
なし	
評価の方法	
出席点（80%）実技確認（20%）	
備考	